

これまでの専門委員会において提起された論点

いけんぷらすに関する事項

○テーマの設定の手法

- ・子どもや若者のリアリティーや生活体験の中から出てくるトピックから話を広げていく議題設定や話合いの展開の仕方については、より工夫ができたかなと思われる。
- ・テーマ設定自体に(子ども・若者が)一緒に加われるプロセスが踏めると、子ども・若者にとってもより考えやすいテーマがつくれたりもする。

○いけんひろばの構成 多様な構成での意見聴取

- ・ テーマをより絞って、もっと詳しい人たちが集まる会や、テーマは全然知らないけれども、学びながら意見をその場で考えていくという会とかというのも今後できるといいのでは。
- ・ (自らが行った)アンケートをしていく中で、何か言いたい意見はありますかと聞いたら「いいえ」と答える人が大半だったが、具体的なことを聞いたら、必ずほとんど全員が何かしら書いているというのがあったので、「子ども若者★いけんぷらす」が、自然に参加できる形になっていけばいいのでは。そうしたら、もっと意見もいろいろ出てくるのではないか。
- ・ 必須にすると参加のハードルが上がる。任意で現場の声を聴く機会などをつけたりして場に臨めますよといった工夫などは今後考えられるのでは。

意見反映の取組の複層化

- ・ 意見反映のチャネルの複数性みたいなものは重要。
- ・ 各施設で日常的に意見を集約するような場があると、今の子ども・若者の声が蓄積されて、各省庁のテーマ設定に生きるのでは。
- ・ 今は、意見を聴いて返すという感じだが、何度も往復していく組立て方も今後考えていけるのではないか。

参加者募集に関する事項 よりよい参加者募集の方法

- ・ 学校を通じて呼びかけをされたこと自体、一定有効なところもあると思うが、学校というくりにしたときに、何か見落とされてしまうところがあるということも注意が必要。

情報発信に関する事項

- ・ 自治体が苦悩して取り組んでいることや葛藤をうまく発信したい。
- ・ 委員会の運営やいけんひろばにメディアにどう露出していくのか。

意見反映の評価に関する事項

- ・ 意見反映の KPI みたいなものがどのように設定されるかということであったりとか、通年で毎年評価をしていくような仕組みみたいなものもぜひ盛り込んでいただきたい。
- ・ こどもの意見を形成したり、それを聴取して発信するということも障害児施設の仕事として責任だということにしたり、場合によっては人員の配置だとか、それをどういう形でやるかということも義務化したり、場合によっては評価して点数化するような仕組みがあると良い。

意見聴取の仕組みに関する事項

- ・ 意見聴取を考えるとときに子どもと若者を別だてで考える必要がある。